

漁業者参加型漁場監視体制整備事業

兜森 良則

目 的

漁業者自らが積極的に監視活動を行うことにより、漁場保全及び監視に対する意識の向上を図る。

材料と方法

1 実施方法

漁業者がエクスマンバージ採泥器で採取した底泥を分析した。

2 調査地点

青森、野辺地、むつ、脇野沢

3 分析項目及び方法

化学的酸素要求量(COD)：アルカリ性過マンガン酸カリウム-ヨウ素滴定法 (新編水質汚濁調査指針)

全硫化物(TS)：検知管法

強熱減量(IL)：550°C6 時間強熱

含泥率(MC)：湿式篩分法により粒径 63 μm より小さい粒子の割合を求めた。

結果と考察

分析結果を表1に示す。水産用水基準(2005年版)の内湾の基準値は、COD ≤ 20mg/g 乾泥、TS ≤ 0.2 mg/g 乾泥となっているが、CODが基準値以下であったのは野辺地だけであった。TSは全地点が基準値以下であったが、青森は基準値ぎりぎりであった。

表1 底泥分析結果

調査地点	採取月日	水深 (m)	COD (mg/g乾泥)	TS (mg/g乾泥)	IL (%)	MC (%)
青 森	H20.9.17	28.4	27.2	0.20	2.7	26.3
野辺地	H20.9.10	30.0	15.4	0.01	2.1	9.7
む つ	H20.8.28	18.9	33.2	0.01	10.1	73.5
脇野沢	H20.9.18	41.0	21.9	0.08	6.7	42.3

調査を始めた平成13年度からの推移を図1に、また本報告書で別途記載している「漁場環境監視調査事業」で実施した陸奥湾内9地点の7月と9月の分析結果を対比させ図2に示した。

平成20年度の分析値が大きく増加しているものはなく、湾内の変動幅内にあることから環境は保全されているものと考えられた。

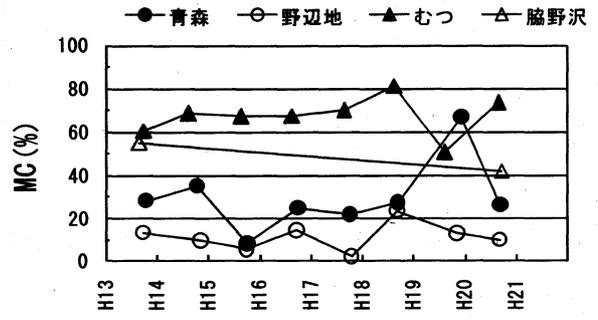
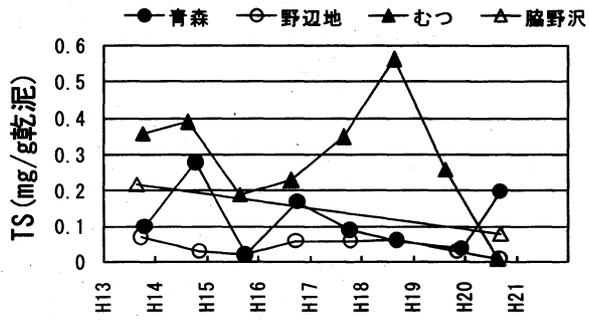
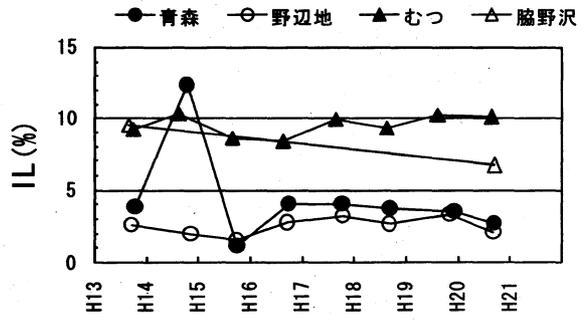
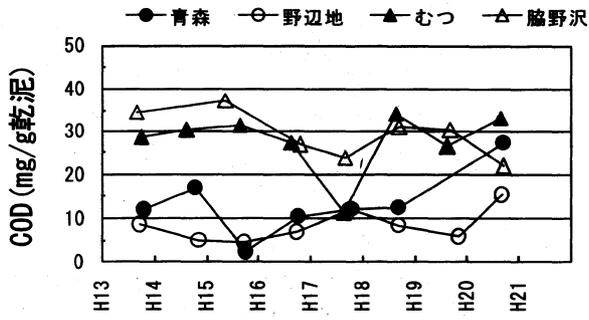


図1 分析結果の推移

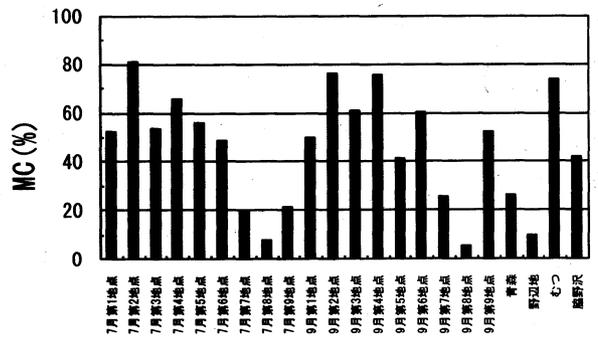
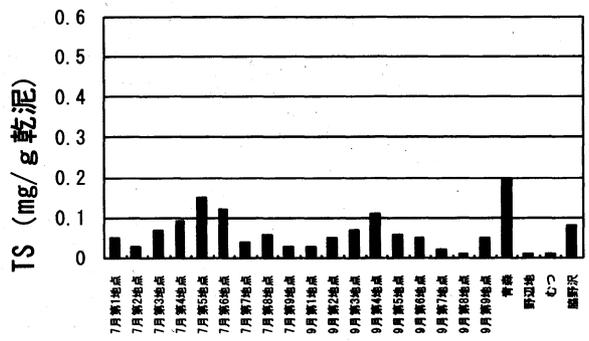
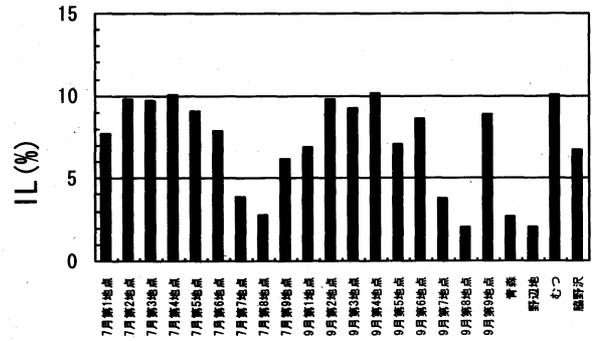
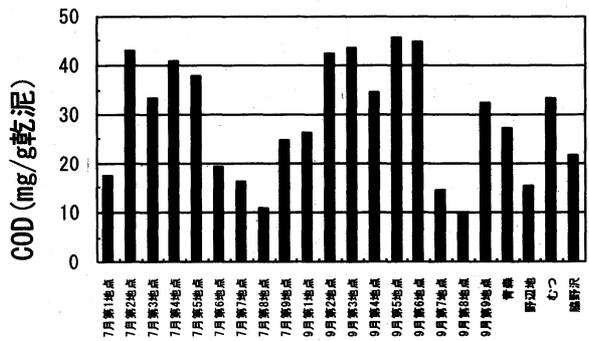


図2 陸奥湾内の他の調査地点との比較